



## -生涯学習- 平成26年度生涯学習関係職員実践講座(基礎編)の報告

佐賀県立生涯学習センターでは、生涯学習・社会教育関係職員に必要な知識や実践力を身につける「生涯学習関係職員実践講座」(  [基礎編](#)・(3771KB; PDFファイル)・  [課題編](#).pdf(8500KB; PDFファイル)を行っています。

6月27日(金)、7月11日(金)の2日間、『生涯学習、社会教育の仕事発見☆再発見』をテーマに基礎編の講座を開催しました。

1日目 6月27日(金)

### (1) 社会教育の現場で学んだ大切なこと ～学びはこころのたからもの～



#### 【講師】

秦野 玲子さん (リ ラーニング代表)

湘南地域の自治体で3つの公民館と生涯学習課で社会教育主事として勤務の経験を持ち、その後、大学院で社会教育について学び直しの道に進まれた秦野さんを講師に迎え、生涯学習、社会教育の役割理解と参加型学習の意義について、ご指導いただきました。



秦野さんは、社会教育は個人の学びを誰かと一緒に学ぶことに意義があると語られました。自分で話す、お互いに聴き合う、要点を書いて読み合うなど、誰かと一緒に確かめ合うと自分の価値観が明確になっていきます。価値観が違う人と何かを一緒にやることで、人間関係の調整能力も培われていきます。例えば活動のまとめ方や記録の仕方など、住民が苦手としていることを学び合い乗り越えていく場を、地域コミュニティという大きな単位ではなく、小さなコミュニティグループで実践しながらまちづくりへとつなげる。そのような取組みも大切にして欲しいと呼びかけられました。

### (2) おとなが変わる！講座の作り方 ～気づき・学び合い・ふりかえり～



午後の時間は、参加した職員自身が多様なグループワークを通し、参加型学習で配慮すること、工夫することなどを考えながら、これからの実践に向け、学び合うプロセスを体験しました。学び合いは、個人の達成感や満足度も大切にしなければならないこと、相互の学び合いに抵抗感を持つ人もいないわけではないことなど、参加型学習を作るプロセスは容易ではないことを学びながら理解を深めていきました。

講座の終わりに、「今日の講座で手に入れたものはしっかり握りしめて自分のものにして欲しい。手に入らなかったものはどこで手に入るか考えて、入りそうな研修に参加しスキルアップを図ってください」とエールを送っていただきました。

## 受講者の声（講座アンケートより抜粋）

- 参加者の求めているものと学習プログラムの目的をどうつなげていくかを、もっと職場で話し合いたい。
- 講座運営の中で自分自身がどのようなことに気を配り、計画していったらいいか改めて気づくことができた。
- グループワークでいろんな考え方、異なる意見に触れることができ、良い刺激になった。
- 他の人の意見を聴くことの大切さを学んだ。

2日目 7月11日(金)

## 学習プログラムができるまで ～企画立案に大切なポイント整理～



### 【講師】

山川 肖美<あゆみ>さん  
(広島修道大学人文学部教授、  
ひろしま未来協創センター長)

たった数日の宿泊体験でも変わっていく子どもたちの姿を、高校時代に参加したボランティアで目の当りにし、ここから社会教育の可能性を信じてこの道に進んだと語られた山川先生。

今回の講座は、学習プログラムをデザインするという意識を共有し、プログラムをデザインするための基本的知識・スキルの修得を目標に、ご講義いただきました。



はじめに、学習プログラムをデザインするということは、社会課題を地域の人々が自分達の力を出し合い、つながりながら解決していくような仕組み作りを、どのように応援していくか考えていくことだと山川先生は述べられました。

また、デザインは色や形など見えるものだけだと思いがちだが、デザインをアートとの違いから捉えると、アートは感性、個人的なものであるのに対し、デザインは社会的、公共的なもので、全ての人の幸せや生活に関わるものと示されました。

さらに、社会課題の解決に市民のデザイン力を活用した神戸市の事例などを紹介していただきながら、学習プログラムの必要性について理解を深めていきました。学習プログラムを作る側が全てを作り成果をもたらすのではなく、住民一人ひとりが自分達の地域課題を知り、地域を好きになり、学習に関わっていくことが楽しいと思いつけるような仕掛けを作っていくことが、デザインの考え方であることを学びました。

## (2) 学習プログラムの可能性 ～実践からプログラムの質を磨く～



学習プログラムの実践は地域の人と人をつなげ、地域のために一歩踏み込みたいと思い、行動する人を作ります。そうした活動を続けていくためには、地域の活動を外に発信していくことが有効だと述べられました。外部から評価され、応援してもらうことで、地域の力が伸びていく可能性を指摘されました。

また、学習の場で全てを解決することはできないので、生活課題に始まり生活課題に戻るという循環を心掛けること。学んだことを持ち帰り、生活の中で試してもらい、その後どうでしたかと声をかけていく余韻も必要と山川先生は述べられました。そして、学習者にとって一番大切なことは、その人自身がそこで得たものを把握し、何が足りな

かったのかを知ることだと述べられ、学習者自身の振り返りをどのようにプログラムに取入れるのか考えていくことも、学習プログラム作りに必要なポイントだと学びました。

## 受講者の声（講座アンケートより抜粋）

- 地域との関わりの中で、何が出来るのか指標を決めて取組んでいきたい。
- 自分の中でもややもやしていた学習プログラムの目的、課題が見えてきた。
- みんなで話し合っって企画することや、チームを組んでの実践をやってみたいと思った。
- とりあえずやってみようではダメですね。しっかり目標をもって進めていきたい。

[<< 戻る](#)

[↑ このページの上へ](#)



[アクセス・交通機関のご案内](#) ▶

[お問い合わせ/ご意見・ご要望](#) ▶

**アバンセ**  
佐賀県立男女共同参画センター・佐賀県立生涯学習センター

〒840-0815  
佐賀県佐賀市天神三丁目2-11(どんどんの森内)  
TEL:0952-26-0011 FAX:0952-25-5591

【指定管理者】[公益財団法人 佐賀県女性と生涯学習財団](#)

Copyright (C) 2011 Avance All rights reserved

### 開館時間

火曜～土曜日：8時30分～22時00分  
日曜・祝日：8時30分～17時00分  
(ホールは22時00分まで)

### 休館日

毎週月曜日(祝日も含む)  
12月29日から翌年1月3日まで